グループワーク１（地震災害における地域の危険の整理）

地震によって、どのような被害や影響があるか

・建物
建物の倒壊、家具や物が散乱、火災
・屋外の危険
津波、土砂災害、液状化、火災の延焼拡大、ブロック塀、石垣の倒壊、橋の損壊、電柱の傾倒、道路の損壊、地割れ、堤防の決壊、貯水池が損壊した時の浸水被害、がけ崩れ、列車の地震による飛び出し

・インフラ、ライフラインへの影響
上下水、電気、ガス、水道、鉄道による影響
（食料、水など物資の不足、移動困難、車両の通行障害、緊急車両や物資搬送車両への影響）
情報を把握するのが困難（デマの情報）
携帯電話がつながらない

・その他
高齢者や独居世帯、一人暮らしの方への安否確認方法と対応
逃げることができない方、体の弱い人の体調を崩す方への対応や被害の影響
道路が狭く非難が困難な場所への対応
エレベーターの閉じ込め
ペットの問題
観光客への対応、ホテル等の災害時の対応について

グループワーク２（自主防災組織の課題について）

自主防災組織の抱える課題の改善策について話し合いましょう。

①地域住民の防災意識を向上させるためには

防災訓練の実施

・訓練に工夫、何かを抱き合わせ、ゲーム性を持たせるなどの工夫が必要（運動会形式を過去に実施した）、楽しい行事をして同時に防災意識の向上を図る。防災行事だけでは全員参加は難しいと考えられる
・一般参加者が自主防災活動に参加できるような取り組み
・訓練を毎年実施することで経験者が増えていく
・訓練を通じて防災体制の組織化を地区で考える
・子供にとって楽しいイベント、防災ゲームを取り組む

防災教育の実施

・保育園、小中学校で防災教育を実施する
・防災訓練では、学校等に通う親世代の参加者数が少ないので、子供から親、地域に伝えることで、子供が地域のことを知る、かかわることが未来の地域社会につながるのでは

人が集まるイベント等を活用

・イベントの前後等に防災の話を実施し、備えについて啓発活動を実施する
・ふれあい活動において防災についての取り組み等
・一斉清掃時に１０分くらい時間をとって地区の問題点や防災について話し合い情報の共有

防災講習の実施

・リーダー等が住民に防災意識の声がけ等を実施（備品、持ち出し品、家具の固定など）
・防災講習を各常会で実施する
・過去の地震の学びを伝える（三河地震、現場、被災地の映像、体験者の講話、過去の教訓）
・今回の研修を活用し、地域単位で伝える
・組長会議での防災勉強会、集会所など小さい単位での講習会の実施
・高齢者に対しては、公民館行事等で研修会を実施する
・ハザードマップ等の配布だけでは意識向上は難しいので話し合いの場をつくるのが有効では

その他

・防災カードの作成（安否確認）、安否確認タオルの訓練
・火の用心の普及（消火器の場所と使用方法、住宅用火災警報器、感震ブレーカーの設置など）
・避難経路を決めておく
・隣近所でのかかわりも踏まえ、ゴミ出し、回覧板の前後の人などに防災の話題に触れる
（３日分の水はありますかなど、少しずつピンポイントで確認できるようにする）
・防災グッズを配布する
・回覧を多くして周知する。地域単位で備えの重要性を普及する。（防災マップ、危険個所の把握）
・家庭内で非常時の対応を認識するようにする。箇条書きでまとめるなど
・家庭内で防災意識の向上をはかる。自分の身は自分で守る基本を伝える

・消防団、もしくはOBの方との協力、連携
・組長が消火器の点検場所の確認（今までは、常会長が実施）
・定期的に自ら被災者になる可能性を想定して考える場を設ける

②地域とのつながり、結びつきを強くするためには

・新しく地域に入ってきた人たちに関わりやすい環境を考える
・祭りやイベントで顔見知り、つながりを作るきっかけになる
・年代を問わず、全世代が参加できる行事があればと思う　例えば盆踊りなど
・防災カードの作成（盗難対策等のパトロールが必要）
・個人情報の壁により住民のことが不明なので、日々となり同士近所の結びつきを強くする。
・単身世帯者が増加しているので、高齢者の把握が必要と思う
・常日頃の挨拶、地区ごとに話し合う場が必要
・マンションや、多国籍の人との結びつきのために、異文化交流や公民館の催し等のイベント企画を取り入れることで、顔見知りになるきっかけづくりにつながるのでは
・一斉清掃時に１０分くらい時間をとって地区の問題点や防災について話し合い情報の共有やコミュニケーションのきっかけを作る
・区の中で各常会の役割を回覧板で知らせるほか、回覧板で消火器の場所を確認できるようにする
・外国人人口が地区によって増加しているので言語を勉強する
・炊き出しを実施することで、地域がつながるきっかけになる、顔の見える関係

③継続して地域防災の向上に取り組むためには

・訓練を継続的に地域で取り組む（毎年の繰り返しと工夫、回覧で周知）
・毎年ある程度のお楽しみの要素を加えて地域の恒例行事とする
・防災クイズを毎年実施しているうちに、参加者の回答率が上がっているのを見ていると継続していくことが大事であると感じる
・防災役員が変わることで引き継ぐだけでいっぱいになるので、地域防災を高めるためには、毎年全員役員が変わらないように３年任期を１/３ずつにするなど工夫する。知識を全体に広めながら前に進めるように考える必要がある
・自主防災役員が単年度で変わってしまうので、研修等のノウハウを生かすためには、ある程度の経験を持った役員を配する必要がある
・訓練頻度を増やす
・自助力を向上させるため、回覧板等で周知する
・自主防災組織の目標のポスターを各家庭に配布して目の付くところに貼ってもらう
・若い世代とコミュニケーションをとる
・子供たちとともにイベント等実施する

グループワーク３（実施している災害への備えについて）

みなさんが、実施している災害への備えについて話し合いましょう。

①命の危険に見舞われる（命を守るために必要な備えとは）

・耐震診断の実施、補強工事
・家具の転倒防止
・耐震ベッド、シェルターの設置
・タンスの上など重いものを置かない、倒れる向きを考え配置する。寝室に倒れるものを置かない
・窓にフィルム、カーテンをし、飛散防止
・誰に助けてもらうか、声がけ連絡網の整備、近所付き合いを密にする
・ヘルメットの設置、枕元に靴（厚底）
・避難経路の確保
・山の倒木の整備
・２階で寝る
・老朽化した塀の撤去
・救助のために車のジャッキが利用できる
・防火対策のために消火器、住宅用火災警報器、感震ブレーカーの設置
・家族との連絡方法、笛

②ライフラインが被害を受け、当面の間使えない（どういった備えがどれくらい必要か）

・水の備蓄（飲料水、生活用水、井戸水の活用、水を入れるためのバケツ等）３日～１週間
・食料の備蓄（火を使わなくてもよい食料、常温の日持ちがする缶詰、パスタ等）３日～１週間
・調理器具（ガスボンベ、ガスコンロ）
・電気の確保（モバイルバッテリー、蓄電池、発電機、太陽光パネルの活用）
・簡易トイレ、便袋、トイレットペーパー
・懐中電灯、ろうそく
・ストーブ、冬場のカイロ、毛布
・情報収集するためのスマートフォン、ラジオ等
・乾電池
・キャンプ用品等で対応

③必要な物が入手しづらい（どういった備えがどれくらい必要か）

・小銭
・簡易トイレ、便袋
・常備薬の確保
・衣類、生理用品、おむつ、ミルク、下着、ボディシート
・ペットの餌
・集会所に伝言板を設置する
・暑さ、寒さの対策
・自家用車のガソリンを満タン
・畑でトイレ用にスコップ